

第 39 回環境審議会 議事要旨

日 時：令和 2 年 11 月 25 日（水）18 時 05 分～20 時 00 分

場 所：オンライン開催（事務局は環境局 第 1 会議室にて）

議 題：（1）「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の策定について
（2）「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」の改定について
（3）「大阪市生物多様性戦略」の改定について
（4）その他

出席者：（委員）上甫木会長、下田会長代行、飯田委員、上田委員、加藤委員、神田委員
阪委員、惣田委員、高村委員、玉川委員、中島委員、西岡委員、深町委員、松井委員、山田委員、吉田委員、吉積委員
（事務局等）青野環境局長、堀井理事兼エネルギー政策室長、井原環境施策部長、三原環境施策課長、永長エネルギー政策担当課長、松井土壌水質担当課長
他

配付資料：次第

- 資料 1 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の策定について（報告）
 - 資料 2 大阪市環境審議会（令和 2 年 7 月 29 日開催）委員意見について
 - 資料 3 大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（案）
 - 資料 4 第 38 回大阪市環境審議会（R2.7.29 開催）での意見要旨と意見を踏まえた対応
 - 資料 5 大阪市生物多様性戦略（案）
 - 資料 6 第 38 回大阪市環境審議会（R2.7.29 開催）での意見要旨と意見を踏まえた対応
 - 資料 7 おおさかエネルギー地産地消推進プランの改定に向けた審議状況について
- 参考資料 大阪市環境審議会規則

【議事要旨】

- ・資料 1 及び 2 により、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画策定部会での検討結果について説明報告し、本日の委員意見を踏まえて案を修正のうえ、12 月を目途に答申することが確認された。
- ・資料 3 及び資料 4 により、大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（案）について事務局が説明し、意見をいただいた。
- ・資料 5 及び資料 6 により、大阪市生物多様性戦略（案）について事務局が説明し、意見をいただいた。
- ・資料 7 により、おおさかエネルギー地産地消推進プランの改定に向けた審議状況について事務局が報告した。

【委員意見】

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画（案）について

- 進行管理の場に、行政以外のステークホルダーが参加し、情報交換などを行えたらよいのではないか。
- 海ごみの発生量について、市民参加で調査をするなどして、意識啓発を図りつつ実態把握をしてはどうか。
- 計画期間中に 2025 年の SDGs に貢献する大阪・関西万博があったり、この計画策定の端緒が国際会議での宣言であることを踏まえ、国際標準、国際対応の視点を盛り込んだほうが良い。例えば、欧州を中心としたリニアエコノミーからサーキュラーエコノミーへの移行や、化石依存の経済から、バイオ資源、生物資源を使ったバイオエコノミーへの転換について、冒頭で触れてはどうか。
- 指標について、現状の値がないのでわかりづらい。本編に記載したほうが良い。

大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（案）について

- エコアクション 21 について、様々な主体との連携という表現を加えたほうが良い。
- 構成として、2050 年ビジョンがあって、2030 年目標の達成に向けた取組みの順のほうが良い。
- 策定以降、国の温暖化対策計画の改定や IPCC の報告書の公表などがあり、2025 年の大阪・関西万博までで大きな動きがあると思うので、国際社会の注目が集まる 2025 年までで見直しを行い、最新の状態で万博を迎えられれば良いと思う。
- 大阪らしい、大阪独自の取組みについて強調したほうが良いし、大阪の状況についてわかるよう、現状について触れたうえで記述したほうが良い。
- 低炭素、脱炭素の言葉の使い方について、脱炭素にそろえるか、使い分けるのであれば用法について説明すべき。
- 目標達成に向けて、どの分野がどれだけの削減を求められている、どこに削減の余地があるといった内容を記載したほうが良い。
- 移動の低炭素化について、自動車によらない都市内での移動や MaaS などについても盛り込んだほうが良い。
- 適応策の目標設定について、分類ごとに代表的な指標を設けたほうが良い。

大阪市生物多様性戦略（案）について

- 目標設定について、ポスト愛知目標との整合を図っていただきたい。
- 国際対応を考えて多言語対応し、広く PR したほうが良い。
- 第 6 章の「大阪市生物多様性戦略の推進体制」において、生物多様性の状況についての情報収集や情報発信が必要。大阪市内には生物多様性の関連の施設が多くあるが、有機的つながりやリーダーシップなどの表現があるとさらによいと思う。

- コラムに **ECO-DRR** の考え方が記載されているが、生物多様性や自然災害への対応の観点から施策を進めることが重要であると考え。今後どのように **ECO-DRR** の位置付けを考えていくか。
- 現在の取組みの状況や到達点がどの程度なのか、定性・定量は問わないが、評価・検証を行い、そこから、十分に連携できていないところを、どういった方向性で進めるか、戦略の中で書き込んでほしい。